

令和3年度 政策評価表

		作成日	令和3年8月27日
リーディングプロジェクト	所沢ブランドの推進とまちの活性化	ゼネラルマネージャー	産業経済部長
未来(あす)を紡ぐミーティング(ATM)メンバー	経営企画部長、市民部長、環境クリーン部長、産業経済部長、所沢駅西口まちづくり担当理事、教育総務部長		
幹事会メンバー	産業経済部次長、企画総務課長、経営企画課長、広報担当参事、地域づくり推進課長、文化芸術振興担当参事、みどり自然担当参事、産業振興課長、商業観光課長、農業振興課長、所沢駅西口区画整理担当参事、スポーツ振興課長、文化財保護課長		

【リーディングプロジェクトの方向性】

本市には、狭山湖や狭山丘陵に代表される都市近郊の豊かなみどり、歴史の中で育まれてきた重松流祭囃子などの伝統文化や歴史的建造物、狭山茶・さといもなどの農産物、焼だんごや手打ちうどんといった食文化、「音楽のあるまちづくり」に代表されるモダンな市民文化など、市民が誇りに思う「所沢ブランド」が数多くあります。そして、まちの活性化を図るためには、こうした他市にも誇れる本市の魅力を十分に活かしていくことが必要です。

本市では、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催時期に合わせ、東所沢に新たな文化の拠点となる「ところざわサクラタウン」が開設するとともに、西武ドーム球場周辺のボールパーク化が計画されるなど、今後、国内外から多くの観光客が本市を訪れることが見込まれています。国内はもとより、海外にまで本市の魅力を伝えることができるこうした機会を捉え、インバウンドに対応した多言語表示や通信環境整備といった基盤整備をはじめ、地元商店や地域における観光客受け入れに備えた取り組みなどを推進し、観光を軸とした魅力とにぎわいの創出のため、豊かなみどりと文化の魅力を伝える「所沢ブランド」を発信します。

【令和2年度に実施した事業】

◀ 「主な取り組み」にあたる事業 ▶

5-3-1 にぎわい拠点の創出・活性化（新規・既存の観光拠点整備・充実）	
「所沢市観光情報・物産館」整備事業（COOL JAPAN FOREST 構想事業）	商業観光課
観光拠点の整備・充実事業	商業観光課
狭山丘陵の魅力の発掘・向上事業	商業観光課
5-3-3 観光を軸としたブランド化の推進（地域製品のブランド化の推進）	
所沢ブランド特産品創出支援事業	産業振興課
ヘルスツーリズム産業創出支援事業	商業観光課
所沢農産物ブランド化推進事業	農業振興課
5-3-4 観光客誘致の強化（地域におけるインバウンド受け入れ体制の構築）	
効果的な観光客誘致プロモーションの推進事業	商業観光課

5-6-1 個性あふれる文化の創造 (市民主体の多彩な文化・芸術活動の促進・市民文化センターの改修)	
市制施行70周年記念事業	企画総務課
所沢アートの潮流開催事業	文化芸術振興課
文化芸術活動支援金給付事業	文化芸術振興課

5-6-2 文化財の保護・活用(滝の城跡等の文化財の活用)	
滝の城跡整備事業	文化財保護課
郷土の民俗芸能支援事業	文化財保護課

≪「関連する取り組み」にあたる事業≫

4-2-3 みどりと水の保全 (「水とみどりがつくるネットワーク」の構築・狭山湖周辺の魅力創出)	
水とみどりがつくるネットワーク計画推進事業	みどり自然課
狭山湖周辺人道橋整備事業	みどり自然課

6-2-1 所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進 (所沢駅西口再開発・区画整理事業)	
所沢駅西口まちづくり事業	所沢駅西口区画整理事務所
所沢駅西口土地区画整理事業	所沢駅西口区画整理事務所
所沢駅ふれあい通り線築造事業(1工区)	所沢駅西口区画整理事務所

7-4-3 地域の総合力の向上 (地域の魅力を都市ブランドとして発信・COOL JAPAN FOREST 構想の推進)	
COOL JAPAN FOREST 構想推進事業	経営企画課
ダイアプラン推進事業	経営企画課

【評価及び今後の方針】

令和2年度の取り組みに対する評価
<p>●にぎわい拠点の創出</p> <p>・所沢市観光情報・物産館整備事業では、本市の観光情報の提供や特産物PR・販売等の魅力発信拠点として令和3年5月の開業に向けて、令和2年度はPFI手法による建設業務や、運営を担う指定管理者の選定、ところざわサクラタウンとつなぐブリッジの建設工事等の整備を進めた。</p> <p>●街の魅力の向上</p> <p>・所沢らしさを追求した魅力ある逸品「所沢ブランド特産品」の第3回認定審査会を実施し、6商品を選定した。また、所沢ブランド特産品の特設WEBサイトにて認定商品(33商品)及び開発者の紹介を行うとともに販路支援を行った。</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「新茶まつり」や「農業祭」等のイベントは中止となったが、新たに、ところざわサクラタウンで開催されたマルシェでの出店や、豊島区で開催されたイベントへの参加を通じて、市の農産物の効果的なPRに努めた。また、新たに作成した「地産地消レシピ」</p>

や農業情報誌等を通じて安全・安心な地元農産物のPR及びイメージアップを図ることで、地域内消費の拡大を目指し、地産地消を推進した。

- ・東京2020オリンピック・パラリンピックの機運醸成及び障害者への理解を深めることを目的に、市内小学校5校でゴールボール体験会を開催した。また、関係機関と協働し、イタリアオリンピックチームの事前トレーニングキャンプ受入れ及び聖火リレー実施に向けた環境整備を進めた。
- ・「第41回所沢市民フェスティバル」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。その後、新たな情報発信の手段としてSNSに着目し、TwitterおよびInstagramにおいて所沢市民フェスティバルの公式アカウントを開設した。
- ・所沢シティマラソン大会は、参加者に本市の自然豊かな魅力をPRすることで所沢ブランドの発信に寄与していたが、第31回大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。
- ・所沢駅西口の回遊性の向上を目指した歩行者ネットワークの一環として、ワルツ所沢北側の既存のデッキと所沢駅西口北街区を結ぶ歩行者デッキを整備した。また、県道久米所沢線の歩道の一部を拡幅整備した。
- ・所沢駅の東西市街地の一体化や駅周辺の慢性的な交通渋滞の緩和を図るため、鉄道と立体交差する道路について、鉄道事業者である西武鉄道株式会社と協力して設計を行った。
- ・水やみどりともちのにぎわいや魅力を結ぶ散策路を設定し「人を中心にしたまちづくり」の実現を目指す「所沢市水とみどりがつくるネットワーク計画」を策定した。また、庁内関連事業を相互に連携させ進捗を図ることを目的に、庁内会議「みどりトコトコ・プロジェクト」を開催し、情報共有を図るとともに進捗管理を行った。
- ・美しい自然景観が魅力の狭山湖やその周辺を訪れる散策者や観光客の安全を図るため、市道5-4号線に、人道橋「狭山湖ふれあい橋」を設置し、地域のさらなる魅力向上に努めた。
- ・広報ところざわ令和2年8月号では、「所沢ブランド特産品」の特集記事を掲載し、商品やその開発者の紹介を通じて本市の魅力発信に努めた。同10月号では、「所沢市の農産物」の特集記事を掲載し、所沢産農産物の紹介を通じて本市の魅力発信に努めた。

●観光客の誘致

- ・「埼玉県・所沢市ヘルスツーリズム協議会」と協働して、「クアオルト健康ウォーキング」を実施し、観光と健康を融合したヘルスツーリズムを展開した。
- ・ところざわサクラタウンの開業に合わせて、観光ガイドブック・おさんぽナビを全面リニューアルし、効果的な観光客誘致プロモーションの推進を行った。
- ・インバウンド戦略推進事業では、新型コロナウイルス感染症の収束後を見据え、所沢市の魅力をPRする動画を作成し、インターネットを活用し情報発信を行うとともに、台湾で開催された旅行博に出展した。また、多言語に対応した、観光ガイドブックでは、英語・中国語（繁体・簡体）・韓国語の4種類、おさんぽナビでは、英語版を作成した。また、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、新型コロナウイルス対応版ゆびさし会話シートを作成し、外国人観光客への対応が円滑に行えるようにした。

●多彩な文化・芸術活動の推進

- ・市制施行70周年記念事業として、記念式典の実施及び記念誌の作成を行った。また、所沢駅の発車メロディを「となりのトトロ」の音楽にするとともに、所沢駅東口ロータリーにトトロの記念碑を設置した。広報ところざわ令和2年11月号では、「所沢市制施行70周年」の特集記事を掲載し、これまでの歴史を振り返り未来につなげるメッセージを発信した。

- ・所沢のアートの変遷を展望する「ところざわアートの潮流」展を市民文化センター ミューズで開催し、多くの来場者が現代アートに触れる機会を創出した。また、本展覧会の報告集（図録）を作成した。
- ・令和3年1月7日付けの緊急事態宣言を受け、文化芸術活動に係るイベントの中止、延期、変更、観客の減少等によって、得られるべき予定の収入を得ることができなかった者に対し、支援金を給付し活動継続を支援した。
- ・市民文化センター ミューズでは、1年4か月に及ぶ大規模改修を経て、主に耐震化とバリアフリーに対応し、誰もが安全に利用できる施設にリニューアルした。

●文化財の保護・活用

- ・平成23年度から令和元年度に実施した「滝の城跡」発掘調査の成果を報告書にまとめ刊行した。
- ・「第14回伝統芸能発表会」の開催は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため見合わせた。過去の記録映像をYouTube（市の広報チャンネル）で公開し、「岩崎鯨獅子舞」や「重松流祭ばやし」など市指定無形民俗文化財のPRを行った。

<総評>

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止や縮小を余儀なくされた事業等も多くあったが、その一方で、ところざわサクラタウンのオープンや市民文化センター ミューズのリニューアル、市制施行70周年等に関連した上記取り組み等により、本市の魅力を一層高めつつ、市内外に向けて発信することができた。また、令和3年度以降に見込まれている国内外の観光客増加に向けたハード・ソフト両面の整備も、概ね順調に進んでいる。

令和2年度は、「所沢ブランドの推進とまちの活性化」の実現に向けて、着実に推進したと評価できる。一方で、新型コロナウイルス感染症の状況次第ではあるが、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えて、令和3年度以降の事業の内容について、十分に検討していく。

今後の方針

令和3年度は、所沢市観光情報・物産館（YOT-TOKO）の開館やCOOL JAPAN FOREST 構想における基盤整備期から成果創出期への移行、西武園ゆうえんちの大規模リニューアル等、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、市内外から多くの観光客が訪れることに期待できる。特にところざわサクラタウンや所沢市観光情報・物産館（YOT-TOKO）では、所沢ブランド特産品や所沢産農産物等の取扱もあるため、市内外・国内外に本市の魅力を積極的にPRし、更なるブランド化を推進していく。

観光を軸とした魅力とにぎわいの創出のためには、庁内外の連携が不可欠であり、COOL JAPAN FOREST 構想や水とみどりのネットワーク計画といった庁内における横断的な連携と、ダイアプラン・西武線沿線サミット・狭山丘陵観光連携事業推進実行委員会等の広域連携を行いながら、事業を進めていく。

さらに、魅力的な観光資源の、調査・把握及び磨き上げを行い、ウィズコロナ・アフターコロナに対応した観光を軸としたブランド化を推進する。

新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが依然立たないなか、市民の安全・安心を確保しながら、多くの人々が様々な文化芸術や自然等に触れて豊かな生活を送れるよう、各イベント等の内容を充実させるとともに、市民一人ひとりが身近な所沢に目を向ける機会と捉え、本市の魅力が市民に浸透するよう情報発信等に努めていく。

【SDGsへの貢献】

- | | | | |
|---|--------------------|----|-------------------|
| 1 | 貧困をなくそう | 10 | 人や国の不平等をなくそう |
| 2 | 飢餓をゼロに | 11 | 住み続けられるまちづくりを |
| 3 | すべての人に健康と福祉を | 12 | つくる責任 つかう責任 |
| 4 | 質の高い教育をみんなに | 13 | 気候変動に具体的な対策を |
| 5 | ジェンダー平等を実現しよう | 14 | 海の豊かさを守ろう |
| 6 | 安全な水とトイレを世界中に | 15 | 陸の豊かさを守ろう |
| 7 | エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 16 | 平和と公平をすべての人に |
| 8 | 働きがいも経済成長も | 17 | パートナーシップで目標を達成しよう |
| 9 | 産業と技術革新の基盤を作ろう | | |